

きもつき

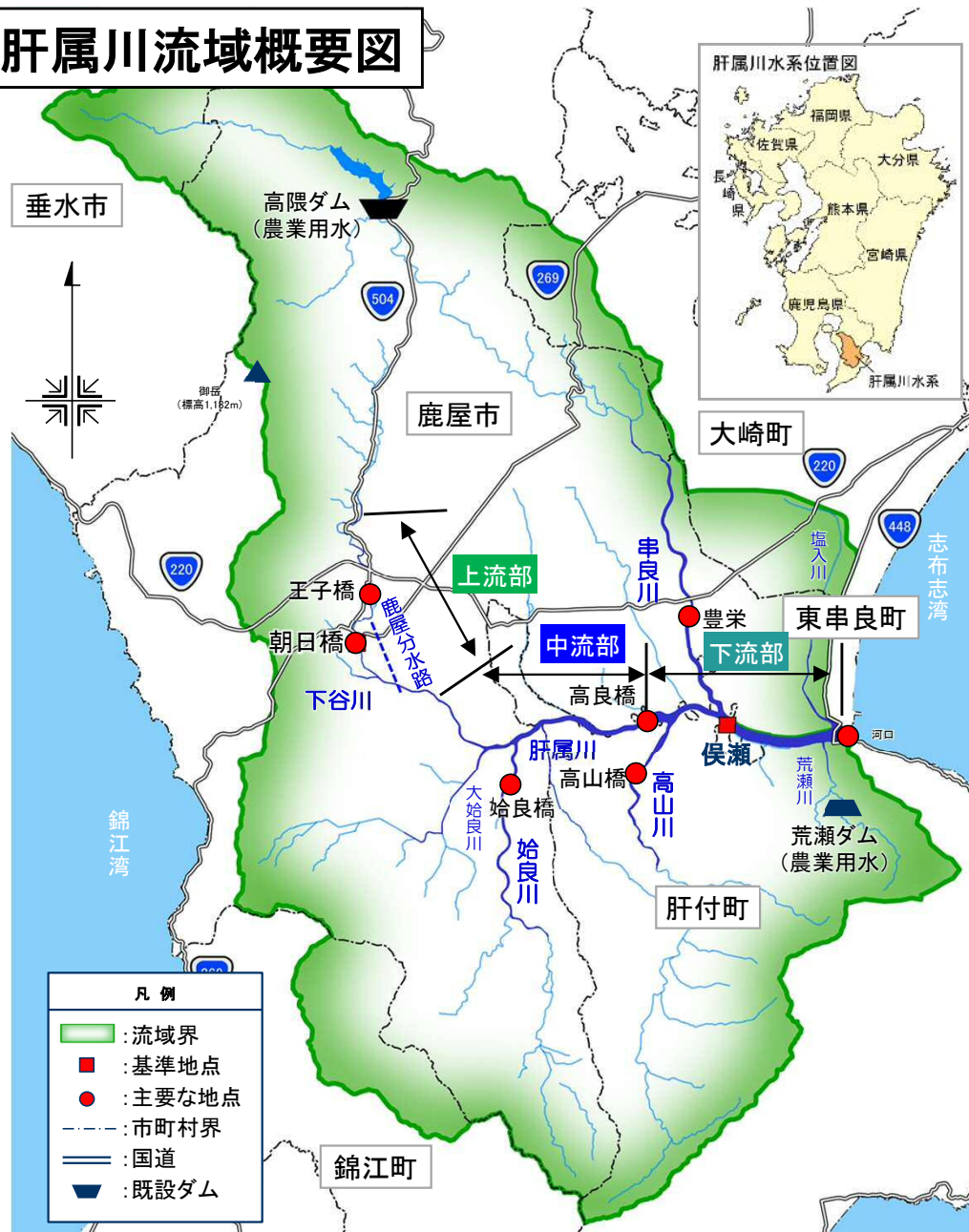
肝属川総合水系 環境整備事業



- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

肝属川流域概要図



- 肝属川流域の上流部は、高隈山地等の急峻な山地に囲まれ、山間部を抜けたところに人口・資産の集中する鹿屋市街部が位置し、これより下流の中下流部は沖積平野が広がっている。中下流部の大部分では、火砕流堆積物であるシラスが分布しており、広大なシラス台地を形成している。鹿屋市は、国道220号等に加え、東九州自動車道の開通により、大隅半島における交通の要衝となっている。
- 流域内の産業は、農業、畜産業が盛んであり、特に鹿屋市は牛・豚の飼育頭数が鹿児島県内で最も多く、流域の基幹産業となっている。
- 流域の動植物の生息・生育・繁殖環境としては、山間部を流下する上流部は、ミナミメダカやゲンジボタル、都市河川の様相を呈する鹿屋市街部は、ミナミメダカやドジョウ等、緩やかに蛇行しながら流下する中流部は、オイカワやシマヨシノボリ等、感潮区間である下流部は、ヨシ原や干潟が分布し、干潟にはシオマネキやハクセンシオマネキが生息・繁殖している。
- 肝属川の水辺は、イベントが催されており、肝属川水辺プラザの水辺ステージ周辺ではリナシティを中心とした各種フェスタ、支川串良川ではイルミネーション、高山川ではやぶさめ祭り・花火大会、始良川の「吾平地区かわまちづくり」整備箇所では鬼火焚きや川まつりなど、多くの人々で賑わいを見せている。

肝属川 の概要	流域面積	485km ²
	幹川流路延長	34km
	流域内市町村	2市4町（鹿屋市、垂水市、肝付町、東串良町、大崎町、錦江町）
	流域内人口	約11.6万人（平成22年 国勢調査）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

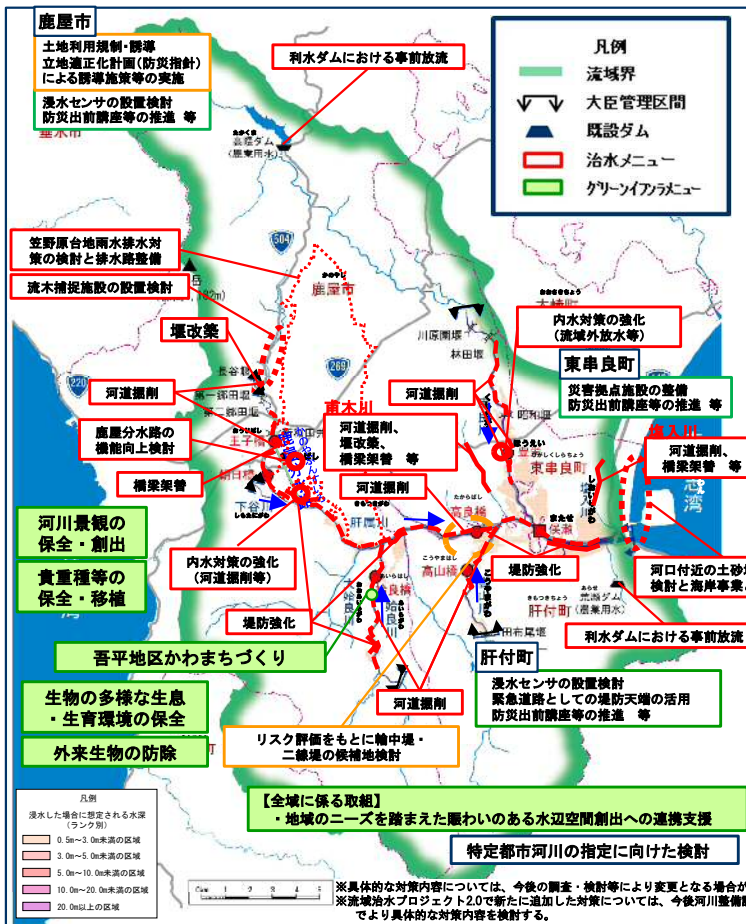
(1) 地域開発の状況

【肝属川水系流域治水プロジェクト2.0】

・肝属川水系国管理区間において、気候変動下でも、肝属川流域で戦後最大の平成17年9月相当規模の洪水に対し2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図ることを目指し、肝属川水系流域治水協議会において、堤防強化、河道掘削、内水対策などの事前防災対策等、流域自治体が一体となった防災・減災対策を図る「肝属川水系流域治水プロジェクト2.0」を令和6年3月にとりまとめた。

【肝属川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】】

・地元住民の憩いの場となるように、今後概ね20年間で多様な生物が生息・生育・繁殖環境及び良好な水辺空間や景観を保全創出するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



●グリーンインフラの取組

『まちづくりと一体となった自然環境と良好な水辺空間や景観の保全・創出』



施工直後



施工数年後

治水対策における多自然かわづくり

●治水対策における多自然川づくり

- ・生物の多様な生息・生育環境の保全
- ・河川景観の保全・創出
- ・貴重種等の保全・移植
- ・外来生物の防除

●魅力ある水辺空間・賑わい創出

- ・吾平地区かわまちづくり

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・民間協働による水質調査
- ・小中学校などにおける河川環境学習
- ・河川協力団体における美化活動、水質啓発活動等
- ・水質保全・向上への取組推進



貴重種の保全へ向けた取組 (始良川)



外来生物防除の取組 (肝属川)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

【自治体の取組（肝付町地域再生計画）】

- ・肝付町は、肝付町地域商社として、町出資による株式会社「きもつき未来商社そらまち」（以下そらまち）を設立。
- ・そらまちは、「地域製品の販路拡大」「地域事業者への支援」「肝付町のシンクタンク機能」の3つの取組を軸に、人口減少による町内総生産の伸び悩みなど、課題解決に取り組む。
- ・目標達成のための具体的な行動としてのアクションプランを掲げており、「みんなが儲かる産業の確立」を目指す。

1. 「そらまち」設立の目的

- ・地域の事業者の「稼ぐ力を向上」させる支援を通して域外からの外貨獲得につなげる。
- ・「みんなが儲かる産業地域」の達成を目的とし、「稼いで町に再投資する」地域経済振興を目指した循環サイクルを創出する。

2. 「そらまち」の事業概要

■地域製品の高付加価値化と販売促進支援事業

- ・地域製品のブランディングや商品開発支援事業
- ・地域事業者への製品の販売促進、プロモーション戦略の立案と実行支援事業
- ・ふるさと納税の運営支援事業 など

■地域事業者の業務効率化や人材育成支援事業

- ・地域事業者の人材育成やDX推進事業
- ・公的資金などの調達と地域事業者への還元 など

■新たな観光コンテンツ創出や情報発信事業

- ・既存観光産業のブラッシュアップ支援事業
- ・地域産業（宇宙関連産業など）を活用した新たな観光産業の創出支援事業
- ・遊休施設の活用や再建、新たな観光拠点やコミュニティの形成創出支援事業
- ・域外の観光関連企業やコンテンツホルダーなど域内への民間資本の集積支援事業
- ・関係人口創出や地域ブランディングに寄与するメディア戦略やプロモーション支援事業

出典：肝付町地域商社 アクションプラン 一部抜粋



出典：肝付町公表資料

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

【道路事業】

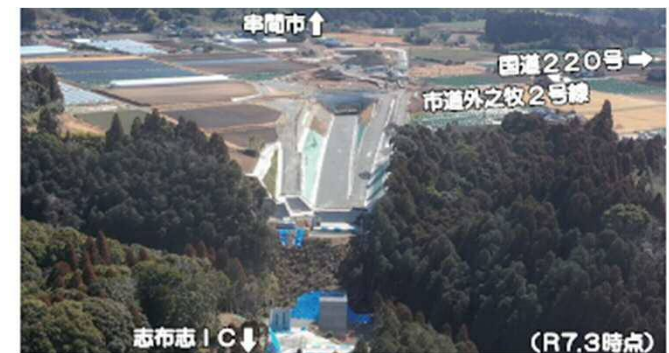
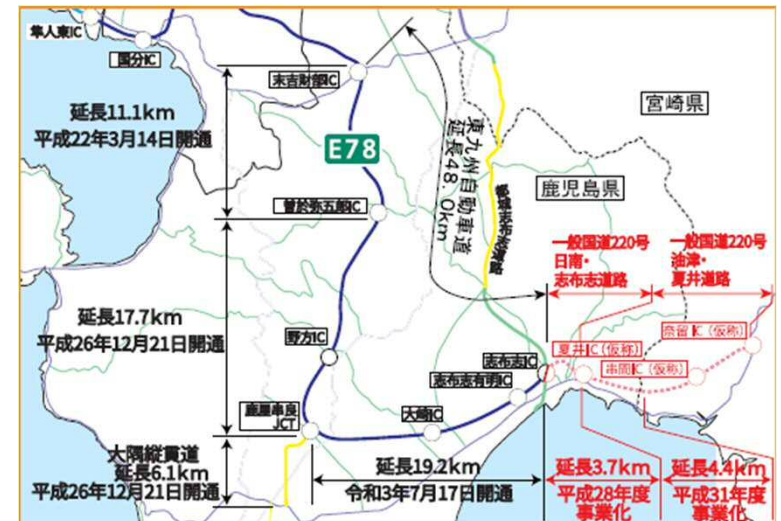
・東九州自動車道の一部鹿屋串良JCT及び志布志ICが令和3年7月に開通し、新たに、日南・志布志道路及び油津・夏井道路が事業化されている。そのほか、肝属川流域内では、大隅縦貫道の一部開通など、周辺地域からのアクセス性が向上しており、高速交通ネットワークの形成による広域交流の促進による地域観光の発展の寄与、交通混雑の解消と交通安全の確保など産業活動の支援、また、災害時の救助活動等にも機能する安全で円滑な高速ネットワークの形成が進んでいる。



《道路事業概要》

改築事業	
①一般国道220号 油津・夏井道路	延長4.4km
②一般国道220号 日南・志布志道路	延長3.7km
③一般国道220号 古江バイパス	延長7.5km
④一般国道220号 牛根境防災	延長4.5km
公安事業	
①野井倉歩道整備	
②菱田歩道整備	
③益丸自歩道整備	
④永吉歩道整備	
⑤磯脇歩道整備	
⑥持木歩道整備	

■一般国道220号日南・志布志道路、油津・夏井道路（東九州道）



夏井IC(仮称)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2) 地域の協力体制【始良川吾平地区】

- ◆始良川では、河川協力団体「始良川河川愛護会」が中心となって、稚鮎の放流や河川清掃活動等の地域活動が継続されている。
- ◆始良川では、平成28年2月に地域住民、各種団体、行政機関で構成される「あいら川かわまちづくり推進協議会」を設立し、始良川を軸とした地域活性化や地域交流の促進、河川利用の安全性向上等について協議を重ねており、「吾平地区かわまちづくり計画」登録後は、様々なイベントが開催され、利活用の促進が確認されている。
- ◆日常的な維持管理については、住民、河川協力団体及び地元企業等が連携して実施している。また河川協力団体主催によるボランティアでの除草活動が行われている。



協議会開催状況



ボランティアによる除草活動 (R5. 6. 23)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2) 地域の協力体制【高山川高山地区】

- ◆平成11年に高山川を主な活動の場とする「こうやま・川の少年団」が結成され、高山川を中心とした自然や歴史、生活体験等（筏下り、水生生物調査、カヌー・川遊び体験、河川清掃など）を年間8回から10回程度活動している。
- ◆令和6年4月に地域住民の代表となる振興会、高山やぶさめ祭を含む肝付町で開催されるイベントの関係団体、地域活動団体、学校関係者・教育委員会、行政機関で構成される「高山川かわまちづくり協議会」を設立し、高山川とその周辺の肝付町高山地区の地域活性化や地域交流の促進、河川利用の活用性・安全性向上等について協議を重ね、**令和7年8月に「高山川かわまちづくり計画」が登録**された。
- ◆日常的な維持管理については、イベント開催前を中心に清掃活動が行われており、毎年10月に開催される高山やぶさめ祭の前には、**地域住民・地域企業のボランティアによる清掃活動**が行われている。



協議会開催状況



ボランティアによる清掃活動 (R6. 10. 12)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3) 関連事業との整合

【あいら川プロムナード整備プロジェクト】（鹿屋市吾平地区）

- ◆ 「あいら川プロムナード整備プロジェクト ～灯りと人で、美里あいら!を彩ろう～」事業は、鹿屋市吾平町にある桜並木が約1.2km続く「吾平桜並木公園」と「始良川」を活用した地域活性化事業で、住民、行政、各種団体が連携して取り組んでいる。この公園は、春には250本の桜の木々が咲き誇り地元では「あいらさんぽ道」という名称で親しまれている。本プロジェクトでは、始良川の「かわまちづくり事業」と連携して、清流始良川と調和のとれた人々の触れ合いのスポットとなるよう、桜並木区間にソーラー式のLED外灯機器を設置し、防犯機能の強化や通学生やウォーキングの安全安心の確保を目的としている。



あいら川プロムナード（鹿屋市HP）

【沿川地域のまちづくり計画】（肝付町）

- ◆ 肝付町都市計画マスタープラン（平成25年8月策定）

- ・ 肝付町都市計画マスタープランにおいて、高山地区を広域拠点に位置づけて高山川の水辺を活かした市街地の環境向上や魅力的な景観形成を掲げている。
- ・ 特に主要施設の整備方針において、水辺を活用した親水機能の整備、自然や景観の保全を目指すものとしている。
- ・ 地域別構想「高山地区」におけるまちづくりの方向性として、河川改修にあたっては、自然環境や景観へ配慮したものとなるよう地域作りと一体的に検討することを記載している。

- ◆ 新しいまちづくり計画（平成16年策定・令和3年3月更新）

- ・ 肝付町は、市町村建設計画として「新しいまちづくり計画」を平成16年に策定し、適宜更新している。
- ・ 本計画により、肝付町は、自然資源と歴史文化資源の融合による「交流のまち」を将来像に掲げ、自然体験を通じた学習等の環境と共生するまちづくりを推進している。
- ・ 「みんなで築く安心・安全、健やかプロジェクト」において、「環境共生のまちづくり」を掲げている。

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(4) 河川環境等を取りまく状況

■各区間の特徴

【肝属川上流部～鹿屋市街部】

- 肝属川上流部では、「高隈山県立自然公園」を中心に動物相が豊かな自然環境が広がっている。山間地を流れる区間は、堰による湛水区間と瀬、淵が連続しており、水際の緩流部にはメダカやカワニナが生息し、**ゲンジボタルも生息**している。
- 鹿屋市街地を流れる区間では、**家屋等が近接し都市河川の様相**を呈しており、単調な河道形態を反映して平瀬を好むオイカワが多く確認され、その他ギンブナ、コイ等が生息している。
- 鹿屋市街地の下流部では、水辺植生がみられ、流れの緩やかな水際には、ミナミメダカやドジョウが生息・繁殖している。

【肝属川中流～下流部】

- 肝属平野を緩やかに流下し、過去に捷水路工事を行なった区間であることから、**広い高水敷とコンクリート護岸が連続し直線的で単調な河川空間**となっている。
- 平地部では河川水や台地周縁部からの**湧水を利用した稲作**が営まれ、**台地部では畜産や畑作が盛ん**である。
- 高水敷は主に採草地として利用され、チガヤ、タチスズメノヒエ等のイネ科の植物が生育している。また、水域には、オイカワやシマヨシノボリが生息・繁殖している。
- 感潮区間の干潟ではシオマネキなどが生息し、クロツラヘラサギの飛来も確認されている。

【支川串良川・高山川・始良川】

- 上流部では河畔林が分布、中下流部では**堰や床止めによる湛水域と瀬・淵が連続**、河岸には砂州が形成されツルヨシ群落が分布するなど、多様な河川環境を形成し、砂礫底の瀬では、アユの産卵場ともなっている。



上流部



ゲンジボタル



鹿屋市街部



ドジョウ



中流部



シマヨシノボリ



下流部(感潮区間)



シオマネキ



高山川



アユ

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(5) 河川の利用状況

- ◆ 肝属川の鹿屋市街地では、鹿屋市による市街地再開発と連携した水辺プラザ事業により、都市空間における“潤いや賑わいのある水辺”の交流拠点となっており、階段護岸をステージ、観客席として利用する音楽祭や、河川協力団体主催の外来水草除去活動など、**地域イベントによる交流が盛ん**である。
- ◆ 肝属川中下流部の高水敷や堤防では、**散策やサイクリング、イベント会場、畜産用の採草地**として利用されている。
- ◆ 支川始良川や支川高山川は、**水辺に近づきやすく水質も良好**なことから、**カヌーや子どもたちでの川遊び、河川環境学習、自然体験活動の場**に利用されている。
- ◆ 支川高山川では、肝付町でおよそ900年に渡って受け継がれている四十九所神社の神事「流鏝馬」にちなんで、高山橋河川敷イベント広場において、「**高山やぶさめ祭**」が行われている。



肝属川水辺プラザ（肝属川上流部）



散策（肝属川）



外来水草除去活動（肝属川上流部）



住民協働による水質調査



高山やぶさめ祭（支川高山川）



水生生物調査（支川高山川）



あいら川サマーフェスタ（支川始良川）



豊栄橋イルミネーション（支川串良川）

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

費用対効果分析（水系全体）

項目	前回評価時 (令和4年度)	今回評価時 (令和7年度)	変更理由
総事業費	約7.6億円 【水環境】 ・肝属川上流：6.2億円 【水辺整備】 ・吾平地区：1.5億円	約8.3億円 【水辺整備】 ・吾平地区：約1.5億円 ・高山地区：約6.8億円	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺整備事業の新規事業（高山地区）による事業費の追加 ・完了評価済みの水環境整備事業（肝属川上流）の、事業計画からの除外による事業費及び便益の変更 ・現在価値化による更新 ・集計世帯数の更新による便益の変更 ・工事諸費を計上しないことによる費用の変更
事業完了年	令和8年度	令和17年度	
B/C	4.0	4.9	
B（便益）	69億円	40億円	
C（費用）	17億円	8.1億円	

※令和7年度より、工事諸費を除いた額をC（費用）として算出。

※ B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率（4%）を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

<費用対効果等>

事業区分			事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C) ^{※1}	B/C
全事業			8.3億円	—	40億円	8.1億円	4.9 <small>※2: 社会的割引率 1%の場合: 8.3 2%の場合: 6.9</small>
継続箇所	水辺整備	吾平地区	1.5億円	—	22億円	1.7億円	13.2
		吾平地区	1.5億円	—	22億円	1.7億円	13.2
		吾平地区	1.5億円	高水敷整正、階段工、管理用通路、モニタリング調査等	22億円	1.7億円	13.2
新規箇所	水辺整備	高山地区	6.8億円	—	18億円	6.5億円	2.8
		高山地区	6.8億円	—	18億円	6.5億円	2.8
		高山地区	6.8億円	高水敷整正、階段護岸工、階段工、管理用通路、水制工、護岸工、ワンド、緩傾斜河岸、モニタリング調査等	18億円	6.5億円	2.8
残事業			6.9億円	—	19億円	6.5億円	2.9
残事業	水辺整備	吾平地区	0.09億円	モニタリング調査	1.4億円	0.08億円	17.0
		高山地区	6.8億円	次年度から整備着手	18億円	6.5億円	2.8

※1: 令和7年度より、工事諸費を除いた額を「費用: C」として算出 ※2: B/Cの算出にあたり、社会的割引率は全事業において4%を適用しているが、最新の社会経済情勢等を踏まえ、比較のために参考とすべき値を2%、及び、1%と設定し、令和5年度以降に適用した場合の算出結果を示した。

	アンケート実施時期	アンケート手法	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計対象世帯数	支払意思額(円/月・世帯)
吾平地区 (水辺整備)	平成28年度	郵便	2,000票	240	半径10km圏内の 鹿屋市・肝付町・東串良町	28,550	313円
高山地区 (水辺整備)	令和7年度	郵便 ポスティング	426票 (肝付町・東串良町) 3,148票 (鹿屋市・大崎町)	145	半径10km圏内の 鹿屋市・肝付町・東串良町 大崎町	22,230	460円

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

《効果名》

【効果の概要】

①便益の算出：約40億円

（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

②地域のにぎわいの創出：鬼火焚き等、地域イベントの開催の場
あいら川かわまつり等、水辺イベントの開催の場
新たなレクリエーションの場としての活用

P16,18,19

③治水安全性の向上：河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P15,18

④良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動
河川を活用した野外学習（水生生物調査等）

P5,6,9

⑤費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業（B/C）：4.9

残事業（B/C）：2.9

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(1) 事業の採択年・工事着手年

区分	箇所名	事業期間	備考
水環境	肝属川上流	平成18年度～平成24年度	完了 (平成29年度報告済)
水辺整備	吾平地区	令和元年度～令和8年度	継続 (平成29年度採択)
	高山地区	令和8年度～令和17年度	新規箇所
肝属川総合水系環境整備事業		平成18年度～令和17年度	

※水環境(肝属川上流)は完了評価済みのため、今後の事業評価の対象外とする。



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(2) 事業の進捗状況（継続箇所：吾平地区（水辺整備））

1) 事業の必要性

- ◆ 始良川が流れる吾平地区は、吾平山上陵を有する歴史あるまちであり、温泉施設、川沿いにはサイクリングロードや桜並木が整備され、水辺ではカヌーや 美里（うましさと）あいら夏祭りを楽しむ人々で賑わいを見せるなど、多くの魅力をもった地域である。一方で、整備箇所については、高いコンクリート護岸が連続し水面へのアプローチができない、植生が繁茂し近づくにくい場所もみられる等、一部の箇所では、安全に利用がしにくい状況がみられる。
- ◆ 清流始良川の河川空間の利用が十分でないことから、「かわまちづくり」による吾平地区の拠点の充実と回遊性の強化を図り、始良川を軸としたひと・まち・産業が躍動する地域拠点を形成し、地域活性化・地域振興を図る。

整備箇所



コンクリート護岸等により、河川敷と水辺との高低差が大きく、水辺に近づくにくい状況。



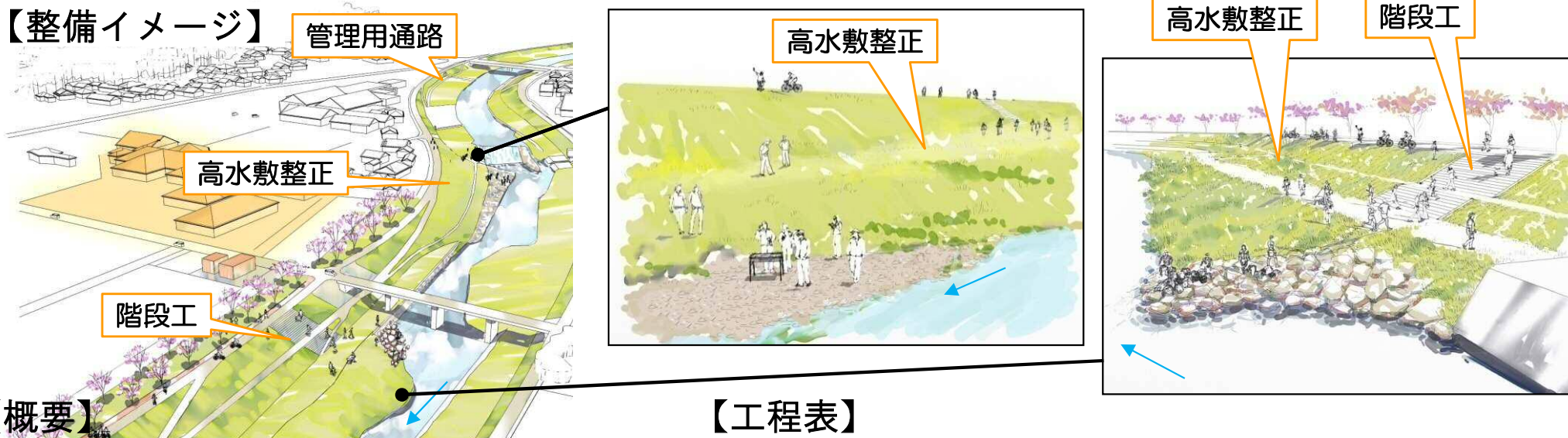
整備箇所と周辺の状況

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2) 事業の目的・内容

◆アユが棲む豊かな河川環境に配慮しつつ、日常利用する地域の人々、サイクリングロードを利用する人々及びカヌーを楽しむ人々等が安全に利用できる拠点、また、伝統行事「美里あいら夏祭り」の開催の場となる拠点を整備することにより、始良川とひととまちがつながる、地域の交流の場、地域振興の場を創出し、故郷吾平町の魅力ある地域づくりに寄与するため、高水敷整正、階段工、管理用通路等を整備する。

【整備イメージ】



【概要】

位置	始良川2k600～3k400付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、階段工、管理用通路、モニタリング調査等
事業費	1.5億円
整備完了年	令和3年度
事業期間	令和元年度～令和8年度

【工程表】

主な工種	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
測量・設計	■	■	■					
高水敷整正		■	■					
階段工		■	■					
管理用通路		■	■					
モニタリング調査等				■	■	■	■	■

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

3) 事業の現状

- ◆整備した河川敷では、始良川かわまちづくり推進協議会を主体に「ウォーキングイベント」や「始良川サマーフェスタ」といった、新しいイベント企画が行われ、賑わいを見せている。また、伝統行事「鬼火焚き」も開催されるようになってきている。
- ◆整備後、施設が完成したことにより、イベントが新たに実施されたり、また安全に快適に水辺を利用できるようになったことから、始良川の水辺利用者が整備前に比べて、整備後約2.4倍に増加している。
- ◆これらの賑わいを受けて、吾平地区のような取組、鬼火焚きなどのイベントを高山地区でも実施してほしい、という地域の声も聞かれる。



ウォーキングイベント (R6. 3. 17)



始良川サマーフェスタ (R7. 8. 17)



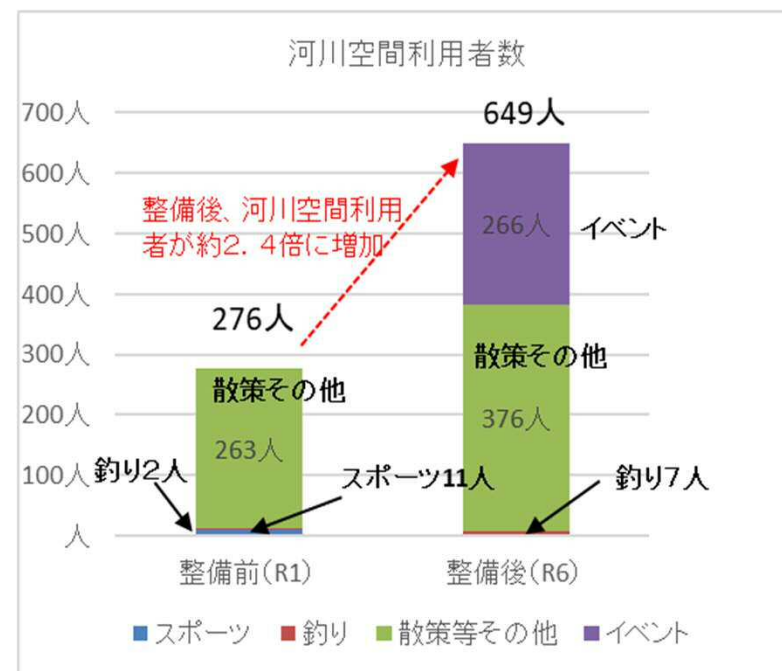
鬼火焚き (R7. 1. 18)



カヌー

事業の効果

施設が完成したことにより
イベントが新たに実施され、
河川空間利用者が大幅に増加。



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(2)事業の進捗状況（新規箇所：高山地区（水辺整備））

1) 事業の必要性

- ◆昭和61年に設置された高山川中央河川運動公園は、かつては町民のレクリエーション広場としてレジャーと健康増進、憩いの場として広く地域住民に利用されていましたが、近年ではかつてほど河川空間の利活用は活発でなくなっている。
- ◆高山川中央河川運動公園周辺の水辺では、土砂が堆積し、その上に植生が繁茂するなどして、整備した階段護岸が利用できない、高水敷から水面が見えないといった状況となっている。
- ◆一方で、約900年にわたって受け継がれている四十九所神社の神事「流鏝馬」にちなんだ「やぶさめ祭り」（平成6年～）や「花火大会」（昭和46年～）のイベント会場等、以前から盛んに河川利用が行われてきた場所である。
- ◆これまでの取組の充実、さらに事業実施範囲の特性を活かし、本計画では、実現性の高い水辺整備や利用に係る取り組みについて、「高山川かわまちづくり協議会」を中心に地域住民とともに協議を重ね、**かつての賑わいや、今まで以上の賑わいを創出して、肝付町（旧高山町）の地域活性化を図る。**

やぶさめ祭の様子（平成13年）



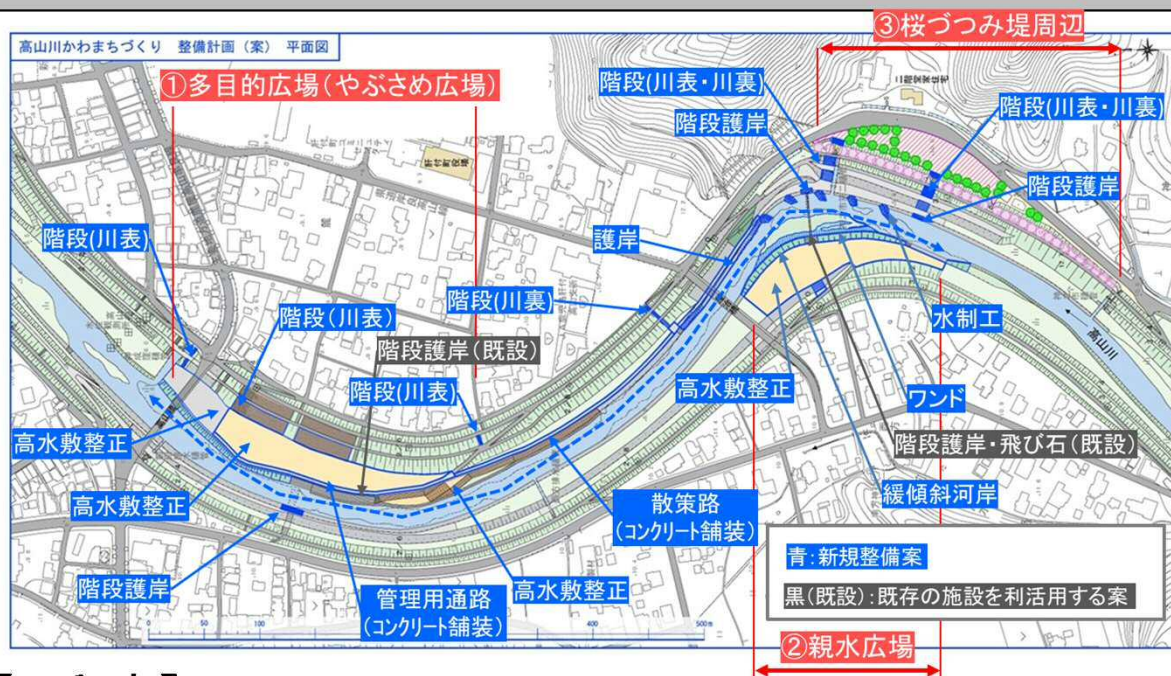
やぶさめ祭の様子（令和6年）



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2) 事業の目的・内容

◆自然資源と歴史文化資源の融合による「交流のまち」を基本理念とし、自然資源である高山川の河川空間を、歴史文化資源のまちである肝付町中心市街地と結びつけるかわまちづくりに取り組むものとし、「環境共生のまちづくり」、「多様な組織との協働や交流を通じたにぎわいの創出」、「交流の場の拡大」の実現を目指して、水辺空間の持続可能な利活用と水辺整備を推進する。



【工程表】

位置	高山川2k300～3k300付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、階段護岸工、階段工、管理用通路、水制工、護岸工、wand、緩傾斜河岸、モニタリング調査等
事業費	6.8億円
整備完了年	令和12年度
事業期間	令和8年度～令和17年度

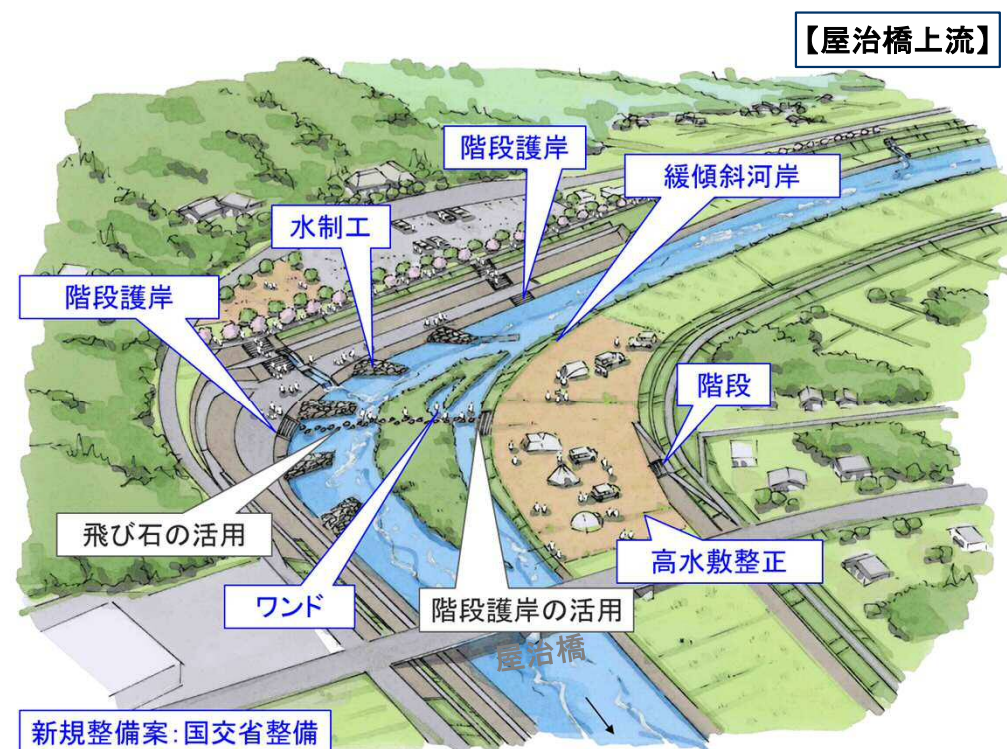
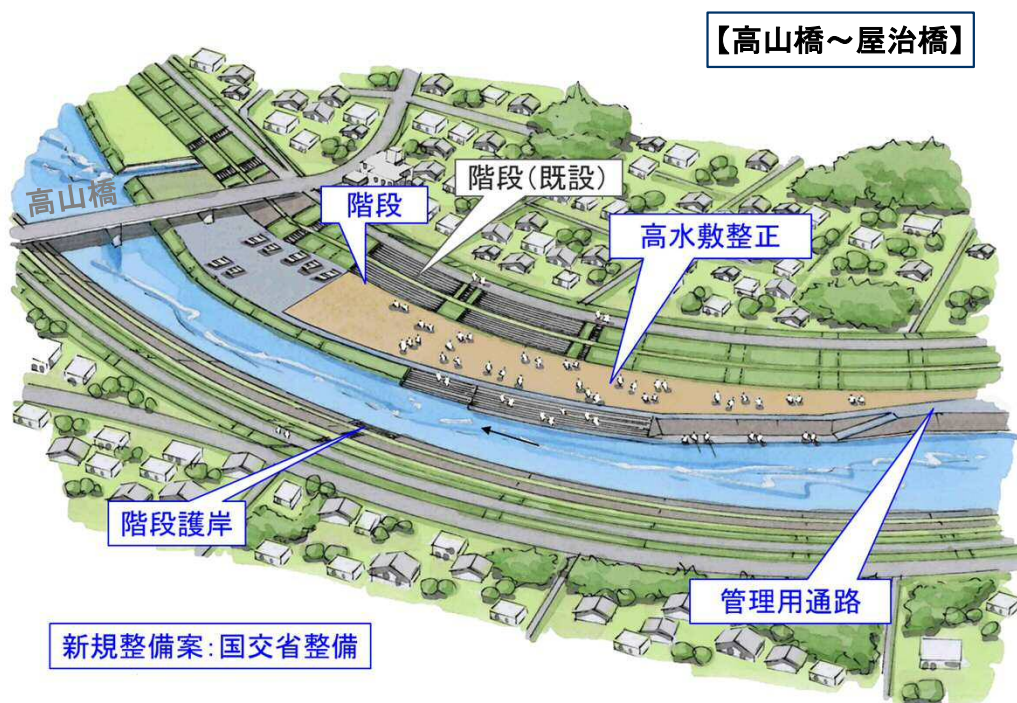
主な工種	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
測量・設計	■	■	■	■	■					
高水敷整正		■	■	■	■					
階段護岸		■	■	■	■					
階段		■	■	■	■					
管理用通路			■	■	■					
水制工				■	■					
護岸工				■	■					
wand					■	■				
緩傾斜河岸					■	■				
モニタリング調査等						■	■	■	■	■

2. 事業の進捗の見込み

(1) 事業費の変更内容（新規箇所：高山地区（水辺整備））

高山川かわまちづくり計画登録 本工事費 5.3 億円

- ・「高山川かわまちづくり」は、令和7年8月に「かわまちづくり」支援制度において計画が登録された。
- ・本計画は、肝付町の「自然と歴史」という魅力を活かし、地域住民の日々の暮らしの営みの中を高山川が流れ、ある時は高山川が賑わいの中心になるよう、水辺空間の持続可能な利活用と水辺整備を推進し、地域の皆さんとともに、「まちの魅力を最大限に活かす」かわまちづくりに取り組むものである。
- ・引き続き、利活用計画・維持管理計画について、「高山川かわまちづくり協議会」を主体に、地域の皆さんと協議を進めるとともに、水辺利用の課題の一つである河岸の土砂堆積については、水制設置による土砂堆積抑制効果等、河道維持管理に関する検討を進めていく。



2. 事業の進捗の見込み

(2) 事業の実施状況

◆事業名：肝属川総合水系環境整備事業（鹿児島県）

◆計画（整備内容）：

〈吾平地区水辺整備（継続事業）〉

・高水敷整正、階段工、管理用通路、モニタリング調査等

〈高山地区水辺整備（新規事業）〉

・高水敷整正、階段護岸工、階段工、管理用通路、水制工、護岸工、ワンド、緩傾斜河岸、モニタリング調査等

◆総事業費（前回評価時）：約8.3億円（約7.6億円）

◆整備期間：令和元年度から令和17年度

◆事業進捗率：約17%

◆残事業費：約6.9億円

◆事業の進捗状況

〈吾平地区水辺整備（継続事業）〉

・令和3年度に整備が終了、令和4年度から供用を開始しており、現在、モニタリングを実施中である。

〈高山地区水辺整備（新規事業）〉

・令和8年度から整備を開始する予定である。

2. 事業の進捗の見込み

(3) 今後の事業展開

- ◆吾平地区においては、地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、令和元年度に事業に着手し、**令和3年度に整備は完了している。**
令和4年度以降は、モニタリング調査を実施しており、令和8年度に完了予定である。
- ◆高山地区においては、令和6年度より地域の協議により策定された「かわまちづくり計画」を踏まえ、肝付町と連携しながら令和8年度から事業を開始し、令和13年度以降はモニタリング調査を実施、令和17年度に完了予定である。

(4) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆吾平地区では、平成28年2月より地域住民や鹿屋市、国土交通省等より構成された「あいら川かわまちづくり推進協議会」が開催され、整備完了後は、整備箇所を利用した整備箇所主催のイベントが開催される等、地域の協力体制が整っており、**今後も順調な事業進捗が見込まれる。**
- ◆高山地区では、令和6年4月より地域住民、肝付町、国土交通省等より構成された「高山川かわまちづくり協議会」が開催され、議論を重ね「かわまちづくり計画」の登録を行った。今後も、**作業部会や社会実験の計画が予定されているなど、地域の協力体制が整っており、順調な事業進捗が見込まれる。**

3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

(1) 代替案の可能性の検討

- ◆吾平地区の整備内容については、計画段階から「始良川かわまちづくり協議会」において協議を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。
- ◆高山地区の整備内容については、計画段階から「高山川かわまちづくり協議会」において協議を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(2) コスト縮減の方策

- ◆河川協力団体「始良川河川愛護会」では、定期的に清掃活動を実施しており、地域住民との協働の取組によって、より良い河川環境の維持と、維持管理上のコスト縮減が図られている。
- ◆河川堤防を除草した刈草の無償提供を行い、維持管理上のコスト縮減と資源の有効活用を図っている。
- ◆今後は近年の技術開発の発展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性を探りながら、事業を進めていく方針である。

4. 対応方針(原案)

- ◆ 吾平地区では、アユが棲む豊かな河川環境に配慮しつつ、始良川とひととまちがつながる、地域の交流の場、地域振興の場を創出し、**故郷吾平町の魅力ある地域づくりの場となることを期待する。**
- ◆ 高山地区では、自然資源と歴史文化資源の融合による「交流のまち」を基本理念とし、高山川の河川空間と肝付町中心市街地と結びつけるかわまちづくりに取り組み「環境共生のまちづくり」、「多様な組織との協働や交流を通じたにぎわいの創出」、「交流の場の拡大」の実現を目指して、**水辺空間の持続可能な利活用と水辺整備を推進する。**
- ◆ 吾平地区では、「始良川かわまちづくり推進協議会、河川協力団体等」が主体となりイベントが開催される等、**利活用の促進が確認されている。**
- ◆ 高山地区では、「高山川かわまちづくり協議会」において、利活用や維持管理計画について協議が進められている。また、地域住民主体とした清掃活動等が行われており、**地域の協力体制が整っている。**
- ◆ **事業進捗率は、約17%（約1.4億円/約8.3億円）であり、令和17年度には事業完了予定である。**
- ◆ **費用対効果（B/C）については、全体事業では4.9、残事業で2.9となっている。**

以上より、**引き続き事業を継続することとしたい。**